

# めぐみ厚生センター恵友会 会報

第 336号

めぐみ厚生センター恵友会

法人本部	0952-25-2797
めぐみ園	0952-34-7722
富士学園	0952-63-0107
ウイズ富士	0952-51-0063

発行人 副島 勉

郵便振替 事務局 めぐみ厚生センター恵友会 口座番号： 01770-6-12389  
〒840-2223 佐賀市東与賀町大字飯盛1584 (めぐみ園内) : tel 0952-34-7722

## 『沈黙の春』に考える



恵友会 副会長  
古賀洋子



未来を見る目を失い、現実には先んずるすべてを忘れた人間。そのゆきつく先は、自然の破壊だ。これは、シュヴァイツァーの言葉です。そして、『沈黙の春』はアルベルト・シュヴァイツァーに捧ぐとされています。著者のこの本は、1962年に米国で出版。日本語の訳書は2年後です。日本は高度経済成長期の重化学工業のために産業公害が拡大した時代でした。四大公害病のことを記憶されている方も多々と思います。カーソンは、多くの企業が有害な化学物質を流出して生態系へ悪影響を及ぼし、人類にも命の危機を与えていると警鐘を鳴らしたのです。今から60年も前のことでした。既に、被害は進んでいました。富山のイタイイタイ病は、1910年頃から発生し「風土病」扱いをされていたと言われている。実際は、岐阜県の鉱山廃水の кадミウムが原因でした。熊本の水俣病、新潟水俣病はやはり工場廃水に含まれたメチル水銀化合物が海や川を汚染し、魚や貝を食べた人達が被害を受けてしまいました。四日市ぜん

そくは三重県の石油コンビナートからの硫酸化物などの大気汚染物質の排出によるものです。いずれも経済優先の人間の愚かな行為の結果でした。1960年代に裁判提訴されて、1971年から1973年にかけて企業側に責任ありとの判決が出ました。すべてが過去のことのようには考えられていますが、失われた命、今も後遺症に苦しまれる方達を決して忘れてはいけません。

「私は、人類にたいした希望を寄せていない。人間は、かしこすぎるあまり、かえってみずから禍をまねく。自然を相手にするときには、自然をねじふせて自分の言いなりにしようとする。私たちがみんなの住んでいるこの惑星にもう少し愛情をもち、疑心暗鬼や暴君の心を捨て去れば、人類も生きながらえる希望があるのに」これは「シャロロットのおくりもの」の作者E・Bホワイトが『沈黙の春』発刊に寄せた言葉です。彼も自然界を愛した一人です。人間が謙虚さを持ち、少しなりとも自然界からの恵みを感じ、その豊かさ、美しさを守る気持ちを抱き続けているならば、この地球は、今程傷つくことはなかったでしょう。

カーソンは本書で『DDT』について触れています。1945年前後に生まれた方でしたらよくご存知の殺虫剤です。人間には害はない物として、戦後多くの子供たちがシラミ駆除のために頭に振りかけられました。無知であったとは言え、恐ろしいことです。自然界の動物達には非常に多くの影響があったことが記録されています。鳥類が、魚介類が、その命を奪われていたのです。DDTの百倍とも言われる殺虫剤が既に多く製造されていきました。2022年の今日、更に強力な毒薬と言っても良い物質を含む食品を私たちは口にしています。60年前のカーソンの警鐘は人間の様々な欲望の歯止めにはならなかったのでしょうか。私たち一人ひとりが、自分の生活を見つめ直してみましよう。次世代に引継ぐために「きょう何をするか」です。その積み重ねが良くも悪くも未来になります。

カーソンは『ものみな死に絶えずの春』ではなく『ものみな萌えざる春』を思い、書きました。便利な私たちが、少し立ち止まり、削り取りましょう。少しだけ「不便な思い」をすることが必要かもしれない。今私たちが、守らなければならない。めぐみ厚生センターの利用者の皆さまが、この春も、笑顔の毎日で過ごされることを祈りながら。

めぐみ厚生センター事業所紹介

事業所名	2022年04月01日現在 事業名
ひまわり	特定相談支援
はっぴい	放課後等デイサービス 児童発達支援
どりいむ	生活介護
きらら	居宅介護・行動支援
めぐみ園	指定障害者支援施設 (生活介護+施設入所支援)
	短期入所
	日中一時支援 地域活動支援センター
富士学園	指定障害者支援施設 (生活介護+施設入所支援)
	短期入所
	日中一時支援
カノン	特定相談支援
ウイズ富士	生活介護
ピースハイム	共同生活援助 (10ヶ所)

厚生センターは今年で73年目を迎えます。89才く6才の方が各事業所を利用しており、事業所毎の活動に取り組みられています。

◎会費納入  
ありがとうございました

一令和4年4月15日現在

(敬称略)

- 堤 宏隆、古川美津子、今村 宏
- 堤 敦子、田代裕明、楠 満、本吉ミヨ子
- 中村昌平、中村瑞穂、村岡 洋、梅野勝子
- 納富俊秀、平山修子、岡本保子、福島龍一
- 岩田寛剛、栗林康之(他1名)、竹久好光
- 山領昭子、松藤範幸、九州食品、斉藤明正
- 栗林裕幸・久美子、池田治夫、はと交通
- 長峰陽子、江頭嘉子、栗林恵一・扶貴

◎ご寄付  
ありがとうございました

一令和4年4月15日現在

(敬称略)

- 堤 敦子、中村昌平、村岡 洋、平山修子
- 栗林裕幸・久美子、岡本保子、斉藤明正
- 福島龍一



第21回

恵友会総会のお知らせ

前回の第20回総会は、コロナ感染拡大のため書面決議となりました。今回の第21回総会もコロナ感染拡大により書面決議とさせていただきます。以下の件を議題にあげていますが、会員の皆様方のご意見等がございましたら、事務局までご連絡下さい。

- 議題
- 1: 令和2年度～令和3年度の事業報告
  - 2: 令和2年度～令和3年度の会計決算報告
  - 3: 令和4年度～令和5年度の事業計画
  - 4: 令和4年度～令和5年度の予算案
  - 5: 協議 「会報誌発行月の変更」  
年6回(白黒)から年4回(カラー)に変更する案
  - 6: その他

役員改正 他

役員の皆様方には6月20日までに返送して頂くように準備をいたします。



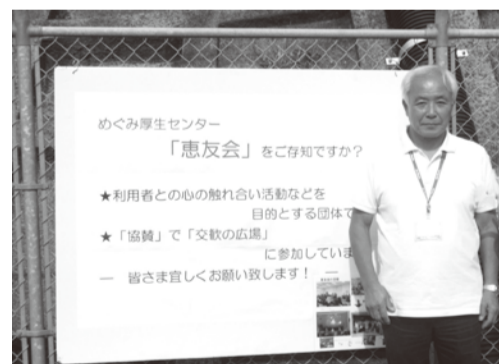
Ⅱ 恵友会について Ⅱ  
めぐみ厚生センター恵友会(以下、「恵友会」とは、一九八六年(昭和五六年)に設置され、利用者の方々との心のふれあい活動等を目的とする団体です。会員は、知的障害者を正しく理解し、恵友会の目的に賛同してくださる方なら、どなたでもご加入いただけます。利用者福祉の進展と地域福祉の周知・促進を行っています。

恵友会の主な活動

- ◎ 総会開催 (二年毎)
- ◎ 富士学園・めぐみ園の交歓の広場・夏祭り協賛
- ◎ 視察研修
- ◎ ふれあいの広場開催
- ◎ 会報誌発行(二ヶ月毎)
- ◎ その他、随時協力

Ⅱ ご紹介 Ⅱ

長きに渡り、当会を陰ながら支えてくださった、川崎俊朗前めぐみ厚生センター統括施設長が、令和3年度をもって退任されました。43年前、富士学園の生活支援員を経て、旧めぐみ園では保健課長を務め、富士学園・ウイズ富士の事務部長・施設長から厚生センターの統括施設長として尽力されました。恵友会活動においても、「ふれ



あいの広場」の実行委員会等を通し事務局を支えていただき、会としても頼もしい存在でした。口癖の「利用者にとって、どうか?」、その想いを継承し厚生センターと恵友会と袂を連ね、障がいを持つ方々の福祉の向上、障がいの正しい理解と周知、そして、利用者の方々との「ふれあい」を大切にする恵友会であり続けたいと思っております。本当に、お疲れ様でした。そして、これから宜しくお願いいたします。



\* 編集後記 \*

「当たり前」。  
当たり前前って何でしょうか?  
つくづく思います。命も自然も、水も空気も、『与えられていた』と・・・  
一日も早い戦いの終息を祈ります。  
(編集局)